

令和4年度 学校評価

小牧特別支援学校

1 自己評価結果と課題

<p>昨年度の 重点目標</p>	<p>「自立や社会参加に向け必要な力を身に付け伸ばす」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個々の課題に対応する自立活動・各授業の改善 2 ICT機器の効果的な活用と教職員の指導力向上 3 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進 4 保護者・地域及び関係諸機関との連携 5 互いにかしあい協働できる職員体制づくり 		
<p>担 当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>小 学 部</p>	<p>主体的・対話的・体験的な授業を通して社会性を伸ばす。</p>	<p>・支援計画を基に学習目標や育みたい力の共通理解を図り、児童が主体的に活動できる授業を展開する。 ・地域資源やICT機器などを活用し、体験的・疑似体験的活動から人とのつながりや社会性の拡大を図る。 ・「新しい生活様式」に対応した安全で安心、清潔で活動しやすい環境を維持し、健康の保持増進やけがの防止を図る。</p>	<p>・各児童の実態や目標を学年会、スタディ会、ケース会などで確認し、それぞれの課題に応じてスモールステップや繰り返しの指導で定着を図ることができた。 ・歩いて学校周辺へ出かけて環境を把握したり、公共交通機関を利用して公共施設を見学したりして、学年の友達との触れ合いや校外の社会環境を体感することができた。情報端末は事前学習や振り返り学習、学校間交流などで有効に活用することができた。 ・状況に応じて学習人数や使用教室を変更するなどして、安全な学習活動を展開した。マスク着用や手洗いの意識付けなど感染予防対応を継続実施し、新しい生活様式の定着を図った。一時期感染症が広がる傾向となったが、学年職員と連携して接触状況を洗い出して対応することができた。</p>
<p>中 学 部</p>	<p>表出力・表現力の向上を目指した授業を実践する。</p>	<p>・ICT機器を効果的に活用した授業づくりを推進する。 ・日々のつながり及び人とのつながりを考えた学習活動を設定する。 ・生徒の興味・関心をひく、体験的な学習の充実を図る。</p>	<p>・Bスタディでは、タブレット端末を活用した調べ学習を取り入れ、機器の操作方法を身に付けるだけでなく、個々に合った学習を深めることができた。意識的に生徒同士が意見を発表し合う機会を設定することで、職員を介さず、友達同士で関わる姿が多く見られるようになった。 ・Cスタディでは、ICT機器を活用して音やダイナミックな映像などを学習に取り入れるとともに、補助具を利用した様々な体の動きの体験、実際の食材に触れたり匂いを嗅いだりする活動など、生徒の五感を刺激する多様な授業が展開できた。 ・BCスタディともに、複数の学年で学習を展開しているため、行事等に向けて学年合同での学習を設定することが難しかったが、その都度、職員間で話し合いながら計画し、学習を進めることができた。 ・近隣の店舗での買い物学習や、工場見学などの体験的な活動を積極的に実施した。事前学習を丁寧に実施することで、校外学習当日には生徒の自主性が見られ、大きな成果が得られた。 ・会議だけでなく、生徒下校後に担当職員間で生徒情報の共有や授業の振り返りを行い、授業の充実を図った。</p>
<p>高 等 部</p>	<p>卒業後を見据え、地域社会で自己の力を発揮するための授業を展開する。</p>	<p>・ICT機器を活用し、障害特性に配慮した分かりやすい授業を展開する。 ・学校生活や他校との交流において、互いを尊重し協働する姿勢を育む。 ・個々の進路実現に向けた課題や目標等を教員間で共有し、指導場面に生かす。</p>	<p>・授業や生活場面において、障害の実態、認知特性、習熟度に応じたICT機器、アプリケーション、補助具等を積極的に活用した。生徒がより主体的に学習に取り組むことができようになり、学習の理解促進、学習意欲の向上につながることができた。 ・日々の授業、訪問教育や他校の生徒とのリモート交流等を通じて、意見を自分の言葉で整理する力、相手に伝わるように発表する力、他人の意見や思いに耳を傾け尊重する力、協力してものごとを遂行する力などを育成する機会を設定し、実践した。自己肯定感や他者を尊重する心の育成ができつつあり、継続して取り組んでいく。 ・部会、学年会、ケース会等で、生徒の進路指導上の目標、課題、留意事項について共通理解し、指導に生かすことができた。進路週間については、生徒の実態や興味・関心等に応じた班を設定したり、企業と連携したりしながら、綿密に計画を進めて実施できたことで、卒業後の生活への意識付けにつながった。教育課程Aの生徒の取組方法や実施時期等の課題については今後検討し、よりよいものにしていく。</p>
<p>訪問教育</p>	<p>人との関わりを大切にした授業を実践する。</p>	<p>・訪問教育の活動を通して、児童生徒同士や取り巻く人と関わる機会をもつ。 ・授業の中で意思の表出を促すような内容を展開する。</p>	<p>・運動会、母学級交流、訪問交流会において、双方向通信を使った活動を取り入れた。日々の授業では、双方向通信を利用した「訪問グループトーク」や、小集団構成の写真共有アプリを計画的に活用し、多くの交流の機会を設けることができた。 ・「訪問教育交流会」では、登校による参加に加え、通信（双方向）での参加も可能とし、保護者の協力のもと、交流の機会を広げることができた。これらの活動は、児童生徒にとって、友達との関わりをもつ機会として定着してきており、交流を楽しむ様子や、積極的な表現や表出が見られた。</p>

<p>絵 務</p>	<p>「新しい生活様式」を踏まえた儀式的行事の実施に向けて改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて儀式的行事を立案し、実施する。 ・中・長期的な視点で卒業式の在り方を検討する。 ・児童生徒、教員がつながりを感じられるようにICT機器を効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の儀式的行事も、感染症対策を考慮した案で実施した。卒業式は、児童生徒数が少ないため感染症対策が可能と判断し、3つの部を一緒に行う形とした。 ・主に式の形態、在校生の参加学年、参加方法について検討し、令和8年度までの方向性を定めることができた。 ・昨年度及び今年度の実践から、課題や問題点をまとめた。今後、学校全体の取組と照らし合わせながら、利用の可能性を模索する。
<p>教 務</p>	<p>学習指導要領の三観点を踏まえた児童・生徒の学習の目標と評価、授業実践の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の三観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を踏まえた目標・評価について、年間指導計画の記入や現職研修等の機会を利用して全教員の理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画（学習の記録）作成時に、授業担当者や学級などで三観点について職員間で話し合う様子が見られ、意識の高まりが見られた。 ・三観点での目標設定や評価、他教科領域や行事等との関連を意識した指導計画についての意識は高まっているが、文書での表現や実際の授業計画などでの具体化に苦慮している様子も多く伺えた。 ・今後は、三観点での目標設定や評価、他教科領域や行事等との関連をよりイメージしたり具体化したりできるように、年間指導計画の活用や児童生徒の発達段階表の追加や文書の例示の拡充を図りたい。
<p>研 修</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット重視の全校研究や校内現職研修を実施することにより、「授業づくり」や「授業改善」に対する教師間の対話を促進し、課題意識の共有を図る。 ・研修の目的や内容に応じて、集合や分散、対面、オンラインなどを柔軟に組み合わせて実施できる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究や夏季研修などで、アウトプット重視の研究や研修が実施され、一部の教員の負担にならない負担感が分散される研究方法となった。研究内容の理解を深めたり、自分の実践に関連付けたりすることができた。 ・新しい生活様式におけるICT環境が整い、オンライン主体の研究や研修に移行ができた。生活様式の変化に柔軟に対応し、研修の目的や内容に応じて、その都度方法を検討していきたい。
<p>図 書</p>	<p>児童生徒が本を身近に感じられる図書室環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の行事や啓蒙活動を通し、図書室や読書への興味・関心を広げる。 ・配架の仕方を工夫し、読書意欲を高められる環境づくりに努める。 ・児童生徒の興味・関心、実態に合わせた図書の選定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内読書週間を実施した。読み聞かせのボランティアを募り、保護者や教員が普段触れ合うことの少ない他学年、他部の児童・生徒と本を通して楽しい時間を過ごすことができた。図書室廊下にテーマに沿った参加型の展示を行い、多くの児童生徒が参加することができた。 ・古い図書の廃棄と修繕に加えて、新しい書架を活用して大型絵本を配架し直したり、ブックエンドを活用して手に取りやすい位置に絵本を配架したりして、本を手に取りたくなる書棚づくりに取り組んだ。 ・アンケートを参考にして、読み聞かせを楽しめる絵本を中心に図書を選定した。新しく購入した図書を目立つようにコーナーに配架し、貸し出しや読み聞かせ等で多く活用された。
<p>教育情報</p>	<p>ICT機器の整備と効果的な活用を進めるために必要な準備を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の分掌等と協力して、職員の授業や校務によるICT機器の活用のために必要な機器や情報の提供を行う。 ・校務支援システムのグループウェアの有効な活用を進める ・職員の情報モラル向上のために、情報資産の管理について徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや視線入力装置などの活用に必要な機器の購入を進めることができた。教育情報部職員で設定を行ったり、購入された機器の紹介や使用方法をグループウェアで伝えたりして、機器の活用を進めることができた。 ・グループウェアについては、現在、活用が進んでおり、アンケート機能の使用などの充実を図ることができた。 ・情報資産の管理については、「児童生徒等の個人情報の管理・保有状況について」のアンケートを、これまでは年1回実施してきたが、本年度はグループウェアの機能を活用して複数回実施したり、分掌主任を中心に資産の重要度ABCを付けたりすることを意識してもらうことで情報資産の扱いに対する意識が高まり、適切に管理することができた。
<p>生徒指導</p>	<p>危機管理体制の確立を図り、安全・安心な学校づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の充実を図る。 ・学校全体で生徒指導を行う体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「大地震発生時の対応」の全校研修では、各グループの検討会を通じて子どもの実態等を考慮しながら、様々な角度で起こりうる状況について話し合うことができた。それにより、防災・減災について職員の意識向上につなげることができた。 ・不登校や情報モラルなど、分掌間で情報共有しながら、問題解決に向けて取り組むことができた。 ・防災教育については、防災訓練時以外では取組が不十分であった。次年度に向けては、児童生徒会からの啓発以外で、各教科やホームルームでの導入事例を示すなど、取り組みやすい方法について啓発に努めていきたい。
<p>進路指導</p>	<p>キャリア教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、保護者及び職員に向けて、進路指導の進め方について分かりやすく情報発信をしていく。 ・進路ニュースや掲示板などを活用して、生徒及び保護者へ卒業後の生活のイメージ化を図る。 ・児童生徒が進路への見通しがもてるように、進路先となる事業所及び上級学部の見学、講話、体験等を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に配付した手引きや事業所一覧をもとに、進路説明会を実施した。家庭から出た質問には、各部で対応した。小学部では、関係機関に問い合わせたり、福祉サービスの利用につなげたりした。中学部では、希望家庭と進路懇談を実施し、必要な家庭には関係機関を紹介したり、事業所見学に付き添ったりした。高等部では、相談支援員を交えながら保護者と密に連絡をとり、産業現場等における実習前後には進路希望を明確にすることができた。結果、3年生は本人・保護者が納得した進路選択をすることができた。 ・進路だよりを4月から12月までに4回発行し、発行時期に

			<p>応じて内容を工夫し、その時々で必要な情報を家庭に届けることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で制限はあったものの、地域の実情を踏まえたキャリア教育（小：ふれあい発見事業、高：事業所見学）を実施し、自分らしい生き方を実現するための力を育む学習の契機にすることができた。各部で出た改善点を次年度に生かしていきたい。
保 健	<p>職員間の連携をもとに、安全な教育環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と看護師の情報交換を密にして、医療的ケアが必要な児童生徒の体調把握に努める。医療的ケア、緊急時の対応について共通理解をもって対応できるようにする。 ・ヒヤリハット事例の集約と分析に努め、事例を全校研修や職員会議等で紹介して、危機管理意識の高揚、持続化を図る。 ・新型コロナウイルス感染症への本校のガイドラインを作成し、学校職員が連携して教育環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の給食時のケアを、各部のケアルームで実施した。年度途中に児童生徒の出席状況や安全な医療的ケアの実施を考慮して、ケアルームの人数を再編した。児童生徒の移動に伴い一部の職員に負担をかけたが、看護師の体制が整うことで安全なケアを実施することにつながった。校外学習への看護師の付き添いでは、その都度、反省は出るが、次につなげることができた。 ・救急搬送が何度かあった。その都度、振り返りを行い、フローチャートの見直しをしながら緊急時に冷静に対応できるようにした。今後も、緊急対応の反省やヒヤリハット報告を生かして、全職員の安全意識レベルの向上を図っていきたい。
教育支援	<p>校内支援及び地域支援の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援の必要なケースに関わり、チームで支援を検討、実施する。 ・職員のスキルアップにつながるように、「支援部からの豆知識」を活用していく。 ・地域の学校が活用しやすい地域支援の在り方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回程度、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣を利用し、助言をもとに、生徒の心の状態の理解や支援、福祉的サービスの利用や市町との関係機関との連携につなげることができた。専門家との連携を通して、参加した職員が児童生徒の心理や保護者の心理、福祉的サービスなどを学ぶ機会となった。 ・職員の意見をもとに豆知識で紹介したい項目を整理し、いろいろな支援部職員から発信することができた。 ・地域の小中学校に地域支援を気軽に活用してもらえるように、相談例を挙げた「あゆみ相談」の案内を作成したり、メールを利用してあゆみ相談の対応をしたりすることができた。
自立活動	<p>自立活動の実践や課題の「見える化」をもとに、個々の課題に対応した指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導に対する職員の困り感を収集して、必要な情報を研修などで提供するとともに、相談体制を整える。 ・ICT機器（主に児童生徒の個人用タブレット端末）の利活用について検証を行い、実践例を情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活でよりよい支援につながるよう、月一回を基本に、随時、グループウェア上に豆知識を発信した。実際の指導で役立てられたか、今後、職員からの意見を収集する機会を設ける。 ・全校研修や夏季研修では、事前に職員の知りたいことや指導事例を講師に伝え、より実践につながるようにした。 ・自立活動部職員のICTでの授業実践を豆知識で発信した。
その他	<p>協働できる職員体制づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を精選するなど、多忙化解消に努める。 ・各校務分掌内の仕事内容を見直すなど、業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会などの会議の進め方を工夫し、書類作成や教材研究等の時間の確保に努めた。 ・各分掌内の業務内容について、簡略化できる部分は見直しを進めることができた。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目			<ol style="list-style-type: none"> 1 個々の課題に対応する自立活動・各授業の改善 2 ICT機器の効果的な活用と教職員の指導力向上 3 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進 4 保護者・地域及び関係諸機関との連携 5 互いにかしあい協働できる職員体制づくり
総 合 評 価			<p>外部（保護者）アンケートは、73名の保護者の方から回答をいただき、回収率は約58%であった。全20項目の質問のうち、おおむねよい（7割以上の評価）が17項目の結果であった。</p> <p>図書室の活用、ICT機器等を使った授業に関する項目では、「わからない」の回答も多く、学校での具体的な取組を保護者に広く知らせていきたい。進路に関する項目では、おおむねよいが6割にとどまっており、保護者のニーズに応じた情報提供の充実を図っていくことが課題である。</p>